会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（東海岸南五丁目自治会）
2　日時	平成 30 年 9 月 15 日（土）13：30～14：30
3　場所	海岸地区コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、下舞主任 （環境事業センター）小川所長補佐、鈴木主事 （東海岸南五丁目自治会）参加人数：16 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●市内小学校で、ごみの現状等の説明をしているか。子供への教育が、将来の茅ヶ崎に繋がるので非常に重要である。 →市内小中学校で、環境学習を実施している。小学校４年生の指導要領において、ごみについての学習がある。その一環で学校に赴き、本市のごみの現状や処理の流れ、分別方法についての授業を行っている。また、環境事業センターや最終処分場、寒川広域リサイクルセンターの施設見学を毎年募集しており、理解を深めるために見学する学校が多い状況である。 ●このような会に参加しない人もいるので、市職員が集積場所に出向いて、分別の指導をしてみてはどうか。 →このような会に参加される方は、分別をしっかり行っている人が多いと感じている。ご意見のとおり、本来、指導すべき対象者は「このような会に参加しない人」であることは認識している。また、そのような方に啓発していくことが、今後の課題である。それを踏まえて、来年度は啓発の強化を行う予定である。 ●ごみ処理は税金の範囲内で行って欲しい。なぜ家庭ごみ有料化や戸別収集を検討しているか、もっと詳しい資料が欲しい。 →ごみを減量する方法はいくつかある。その中でも、家庭ごみ有料化と戸別収集は、ごみ減量の非常に有効な手段であることから検討している。現在、戸別収集の経費等を試算中であり、分かり次第、報告する予定である。 ●他自治体に比べて、本市は取り掛かるのが遅い。家庭ごみ有料化や戸別収集はもっと早く検討すべきである。 →家庭ごみ有料化や戸別収集の検討は以前から行っている。意見交換会のような場を設けての検討は、今まで実施していなかったところである。 ●本市の場合、剪定枝は袋に入れたり、紐で結んで排出している。藤沢市の場合、袋に入れず、紐で結ばない状態で排出している。本市も藤沢市と同じような排出方法を

	検討して欲しい。 →藤沢市の場合、剪定枝については、直接搬入のほか、市に連絡して戸別に収集が行われている現状である。本市は剪定枝の資源化を検討しているが、その排出方法も含め、他市の事例を参考にしながら、検討していきたい。 ●平成 45 年度以降の、灰の処理方法の提案は無いか。 →現段階で具体的な提案は無い。現在は、灰の一部をリサイクルして、セメントや路盤材にしている。平成 45 年度以降は灰を市外で処理するか、全量を資源化することを検討している。資源化する費用は５万/ｔかかるが、年間約 8,000ｔの灰が出るので、年間約４億円かかる試算になる。 ●ごみ処理経費 30 億円を、経費削減した後の目標金額はあるか。特定の市民しか利用しない、柳島スポーツ公園が建設されているのに、市民全員の生活を支えるごみ処理経費が逼迫している状況は納得できない。 →30 億円の内訳としては、収集運搬、中間処理、最終処分に係る経費の合計であり、ごみの減量に伴う具体的な削減額は、現段階ではお示しすることはできない。また、家庭ごみ有料化や戸別収集を実施するにあたっては、現体制を見直しすることは、当然だと考えているが、そのことに伴い、どの程度経費が増減するかは現在試算中である。 以上